■　わんぱくプラザ老上の活動（老上学区地域協働合校推進委員会）

１【活動の趣旨】

　わんぱくプラザ老上は、地域の大人たちが知恵を出し合い企画・実施し、子どもたちが様々な人やものに接して学べる機会を創出する活動である。また、参加した子どもたちの保護者にも活動への参加を促し、世代を超えたつながりを広げ深めていく。

２【特徴的な活動内容】

○６月「国立民族学博物館へ行こう！」

　恒例のバス遠足では、５８名の参加者がバス２台に分かれ万博記念公園内にある国立民族学博物館へ行った。広い館内を歩きながらアクテビティカードに熱心に書き込む子どもたちの姿が見られ、世界の民族や異文化を感じることができた。最後には『太陽の塔』まで歩き、塔の実物の大きさを感じた。

【国立民族学博物館にて】

○１０月「わんぱくハイキング」

　子ども３７名、学生を含むサポーター１４名が参加した。午前に快晴の日野町松尾公園で遊び、お弁当を食べた後は「甲賀の里忍術村」へ。忍術修行の石垣登り、塀越え、井戸抜などを巡回し、人気の水蜘蛛体験では沼に落ちても笑顔で帰路についた。サポーターの方々の見守りにより、楽しく体験ができた。

【水蜘蛛に挑戦！】

○２月「立命館ライフサイエンス研究会　科学のあそび」

　わんぱくプラザ最終回の「科学のあそび」では子ども５６名、学生を含むサポーター１８名が参加した。高学年と低学年に分かれ難度の違う６種類の実験を行った。子どもたちは遊びながら科学の不思議を体験し、地域の大学生との交流も楽しんだ。

【ポンデリング風船】

３【実施に当たっての工夫】

　国立民族学博物館では、低・中・高学年で異なるテーマのアクテビティカードを使用した。科学のあそびでも、低・高学年にブースを分け実験を同時に行い全学年が退屈しないように試みた。また、ハイキングでは、現地へ出向き昼食場所も含め下見を重ね、あらゆるケースを想定し安全に実施できるようにした。

４【事業の成果】

　わんぱくプラザでは小学校全学年から年間募集し、年齢を問わず参加できるような計画を立て実施したことにより、学年を超えた子どもの交流や地域の大人サポーターや学生との交流が継続できた。

５【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

　全学年から５０名と募集を限定しても、館外で一斉に入場できる施設が少なく感じる。学年毎に充実した内容を考えるのなら、事業により学年を限定していく。サポーターの人数を確保するため令和７年度も会員募集制にする。地域の団体と連携した活動も実施する。